

「火の用心だより」第84号(令和4年3月)

発行：札幌市消防局予防部予防課

漏電による火災に注意しましょう

漏電とは・・・

屋内配線や、電気機器は、絶縁処理がされているため電気が漏れないようになっていますが、配線の被覆などが経年劣化で剥がれたり、傷ついたりして、電気が外部に流れ出てしまうことです。

先日札幌市内で発生した、漏電による火災事例を紹介します。

モルタル造2階建ての一軒家でおきた火災です。

外壁に設置された防水コンセントに接続している屋内配線の被覆が、経年劣化により剥がれて芯線が露出し、この配線が壁の中でラス網に接触したことで漏電、ラス網が発熱して、壁内の木材に着火して火災となりました。



モルタルの壁は、ラス網という金網を下地にしてモルタルを塗って仕上げています。

このような事例の場合、壁の内側で燃え広がっていくため、火災に気づきにくいので注意が必要です。

～電気火災の特徴～

電気火災は、生活空間の中はもちろんですが、小屋裏や天井裏、壁の中の電気配線など、**予期せぬところで火災が発生してしまうことがあるのが特徴です。**生活の中で臭いや異常を感じたら、家の中だけを確認するのではなく、いったん外に出て家の周りを確認してみると、予期せぬところから煙が見えるかもしれません。注意していても火災が起こりうる。それが電気火災の怖さです。

ご自宅の電気設備は、電気事業法により定期調査が義務付けられています。**不良箇所があった場合は、調査結果のお知らせに記載された連絡先へ連絡しましょう。**



給排気筒が雪に埋まっていますか？

記録的な大雪の影響で、ストーブの給排気筒が雪で埋まってしまう事案が多発しました。この先、気温が上昇すると落雪により、同じような事案が発生する危険があります。

給排気筒が雪で埋まるとどうなるの？

給排気筒が雪に埋もれた状態で使用すると、「**排気ガス**」が室内に流入したり、「**不完全燃焼**」を起こす原因となり、死亡事故につながる危険性があります。

多くの場合は、安全装置等の作動により、ストーブが停止するので、大きな事故につながるおそれは少ないと考えられますが、この時期にストーブが停止してしまうと、本当に困りますよね。



不完全燃焼による一酸化炭素中毒とは？

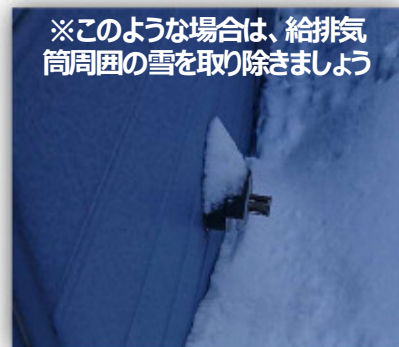
ストーブやボイラーが不完全燃焼を起こすと一酸化炭素が発生します。一酸化炭素を含んだ空気を吸いこむと「一酸化炭素中毒」となり大変危険です。

一酸化炭素は無色・無臭の気体で、少量吸い込むだけでも頭痛・吐き気がみられ、さらに深刻な症状になると意識や呼吸の障害などを伴い、死に至ることがあるため、十分な注意が必要です。具合が悪くなった場合は、すぐに119番に通報してください。

それは心配・・・どうしたらいいの？

- 給排気筒の周辺は、こまめに除雪する！
- 給排気筒を定期的に点検・確認する！

☞ 積雪だけでなく、鳥が巣をつくっていることなどもあります。



高齢の方や、からだの不自由な方などで、自力で対処することができず、不安がある場合は、**お住まいの地域を管轄する消防署の警防課**へご相談ください。

また、ストーブ・ボイラーに異常がある場合は、点検業者等に相談してください。

市民が主役の火災予防

- ① 火災予防行事・活動に参加しましょう
- ② 火災予防の知識・行動要領を身につけましょう
- ③ 消火器などの防災機器を備えましょう
- ④ 防災品を使用しましょう
- ⑤ 放火されない環境をつくりましょう
- ⑥ 火災から高齢の方などを守りましょう

発行：札幌市消防局予防部予防課

〒064-8586 札幌市中央区南4条西10丁目

☎ 011-215-2040

SAPP_RO



さっぽろ市
02-N03-21-026
R3-2-483